

保育所における自己評価

A 大変よくできている	C 検討が必要
85%以上	50%
B 良い	D 改善を要する
65%以上	25%

新保育所保育指針で「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ園の保育の内容について評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。

よって和泉ふたば保育園では、これに基づき自己評価について公表いたします。

評価日:

令和6年1月31日

対象者:

保育士名

評価項目	結果	取り組み状況
保育理念・方針	C	保育所保育指針をもとに全体的な計画、月、週指導計画を作成し、保育を行っている。園の保育理念、保育目標に関しては、しっかりと把握できていない職員もいるので、来年度へ向け職員全体で再確認して共通意識を持ち取り組んでいく。
生命の保持・心の安定、健康・安全	C	一人ひとりの発達状況に応じ保育を行うことについては、園全体で共通意識を持ち丁寧な保育を心がけているが、まだ十分ではないところがあるので、子ども一人ひとりへの丁寧な対応を職員全員で再度確認する。個別のケースや特別な配慮が必要な子どもの会議等はその都度行なっているが、経過を追えるよう記録・計画等を改善していく。
人との関わり	B	送迎時は、健康面と共に子どもの様子を具体的に伝え、保護者の悩みや不安についても解消に務めた。必要に応じて保護者面談を行いながら、常に子育ての悩みや不安な気持ちに寄り添い支援につながるように務めている。コロナ禍の影響もあって、地域の人との関わりが希薄になっているので、触れ合う機会をつくるようにしたい。
表現活動・言葉	B	子どもが感じたことを自由に表現する機会は作れているが、子どもが作った作品等をたくさんの保護者にみてもらう機会がもてないので、場所の制約はあるができる範囲で披露する機会を作りたい。

次年度へ向けての取り組み

- ・保育理念、保育目標の再確認と共通意識を図っていく。
- ・外部の研修だけではなく、園内研修を充実させ、相互に学ぶ機会を持てるようにする。専門的な分野だけではなく、主体的な保育や配慮が必要な子どもについて等、広い知識を得られるよう努めていく。
- ・コロナ感染症も落ち着いてきたので、地域との交流、子育て支援を進めて行く。

総評

自己評価を行うことで職員自身が保育の見直しをし、園全体で保育や運営について改めて考えるきっかけとなった。保育に関しては、一人ひとりに丁寧に対応し、個々の発達に応じて保育をすることは園全体でできていた。また主体性を尊重する保育も行っているが、集団で過ごす中でうまくいかない部分もあった。職員間で話し合いを重ねながら、子どもたちが過ごしやすい環境を整えていきたい。また保護者とも引き続き密に連携を取りながら、保護者も子どもたちも安心して園生活を送れるよう信頼関係を深めていきたい。